気象災害対策No.4

令和４年４月２８日

降雹・突風・短時間の大雨に対する技術対策について

農業総合センター
専門技術指導員室

事前対策

降雹・突風の事前予測・対策は難しいが、普段から心がけるべきこととしては以下のとおりである。

１　ハウスとその周囲の点検

（１）ハウス周囲に排水溝を設ける。

（２）防風ネットの強度を確認する。

（３）ハウスバンドや被覆フィルムの取り付け金具等に緩みがないか確認する。

（４）被覆資材の破損がある場合は補修しておく。

（５）ハウスの周囲を片付けておき、強風により物が飛散しないようにしておく。

２　ほ場の点検

（１）ほ場周囲に明渠を設ける。

（２）野菜・花き：マルチやトンネル支柱・被覆に緩み、外れがないことを確認する。

（３）果樹：支柱やネットの強度を確認し、弱い部分は補強する。
棚面の随所に支柱による上方への突き上げと針金による下方への誘引を行い、上下動を抑える。
多目的防災網の固定ロープ・あおり止めの点検・補強を行う。

事後対策

Ⅰ普通作物

１　水稲

（１）冠水被害は、葉先が少しでも水面に出ていれば軽くなるので、速やかな排水に努め、排水後は清水に入れ替える。

（２）水が引いた後、しばらくしても新根や新葉の発生がなく、葉が簡単に引き抜けてしまう場合には、植え替えが必要になる。通常は３～４日程度の連続冠水であれば、分げつが遅れるものの、生育は概ね回復する。

（３）冠水後は黄化萎縮病、白葉枯病が発生しやすい。また、雹による折損でも白葉枯病が発生しやすくなるので、その後の発生に注意し、発病を認めたら速やかに薬剤散布を行う。

（４）冠水した水田では、除草剤散布前に畦畔が崩れていないか確認し、水管理に支障をきたす場合には速やかに補修する。

２　麦類

（１）冠水したほ場は、速やかに排水に努める。

（２）赤かび病の発生が懸念されるので、適期防除に加え１回目の薬剤散布の７～10 日後に追加散布を行う。

（３）被害粒の混入防止のため、倒伏が著しい圃場は刈分けを行う。

II 野菜・花き

１　露地・トンネル栽培

（１）圃場が冠水した場合、ほ場周りの排水路等により速やかに排水する。

（２）畦がくずれたほ場では、畦を直し、株元が露出している場合は土寄せを行う。

（３）茎葉の損傷や冠水があった場合は、病害が発生しやすくなるため、折損部位の除去や薬剤散布などの防除対策を行う。

（４）収穫中の果菜や採花中の切り花が損傷した場合は、草勢の回復を優先するため、果実の一部除去や花の切り戻しをする。

（５）切り花では、倒伏したものは速やかに起こし、茎の曲がりを極力抑えるようにする。

（６）液肥の葉面散布により、草勢の回復を図る。花きは種類や被害程度に応じて行う。

（７）土壌によっては、降雨により土壌表面が固結しやすい場合があるので、浅く中耕を行い、根傷みの回復を図る。

２　施設栽培

（１）施設の破損の点検を行い、必要な補修を行う。

（２）施設内が浸水及び冠水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。

（３）茎葉の損傷や冠水があった場合は、病害が発生しやすくなるため、折損部位の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。

（４）収穫中の果菜や採花中の切り花が損傷した場合は、草勢の回復を優先するため、果実の一部除去や花の切り戻しをする。

（５）液肥の葉面散布により、草勢の回復を図る。花きは種類や被害程度に応じて行う。

III 果樹

果実への傷害は降雹後１週間程度で判別可能になるので、果実や樹体への損傷をよく観察して、下記の対策を行う。

（１）摘果は被害面や上面をよく確認し、着果数が不足する懸念がある場合は、軽微な傷のものはなるべく残すよう丁寧に行う。

（２）果軸の損傷はコルク化し、収穫までに軸折れによる落果の原因となりやすい（特にナシ「豊水」）。

（３）太い枝の損傷部分は、塗布剤により保護する。

（４）主枝、亜主枝、予備枝先端の新梢が欠損した場合、新たな新梢発生・伸長を待ち、育成する。

（５）落葉や葉の損傷が著しい場合には、葉面積の確保のため、強い新梢の間引きや摘心は控える。

（６）枝葉の損傷部より病気が発生しやすいので、損傷した枝は、強い切り戻しにならないように注意しながら、健全部まで平滑に切り戻して保護するとともに、薬剤散布などの防除対策に努める。また、枝葉の損傷や切り戻しにより、枝葉の再伸長が多くなった場合、再伸長部分にアブラムシ等の害虫が発生しやすいので注意する。